

令和2年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	59	学校名	県立江戸崎総合高等学校				課程	全日制		学校長名	藤田 和文					
教頭名	池田 聡		佐野 正道							事務(室) 長名	石引 浩					
教職員数	教諭	38	養護 教諭	1	常勤 講師	12	非常勤 講師	3	実習教諭, 実習講 師, 実習助手	7	事務職 員	4	技術職 員等	7	計	76
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	総合学科		102	87	89	77	82	75			273	239	17			

2 目指す学校像

- (1) 規律を重んじながら生徒一人ひとりの個性を伸ばす，創意と活力に満ちた学校
 (2) 地域の様々な教育的ニーズに応え，生徒，保護者及び地域住民に広く信頼される学校
 (3) 生徒一人ひとりの興味・関心，能力・適性に応じた進路の実現ができる学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	学力や学習意欲に関して多様な生徒に対応するため，特別進学クラスの設置や少人数による授業展開(数学・英語)を実施している。また，生徒主体による中学校での出前授業をはじめ，地域連携活動をとおして，生徒の自己肯定感・有用感を高める指導を推進している。さらに，各種検定試験の全員受験を実施し，3年次における資格記入率(就職履歴書)は100%となるなど，一定の成果をあげている。	- 基礎基本の理解を徹底させる指導の在り方や授業改善等 - 習熟度に合わせた個に応じたきめ細かな学習指導の実践 - 各種検定試験の全員受験を継続し，受験に向けた取組の充実 - 特編クラス指導の組織化
進路指導	進路希望は，就職から国公立大学進学までおり，生徒一人ひとりの希望は多岐にわたっている。就職については，学校を通しての就職内定率が98%になるなど，高い実績をあげている。進学については，特に医療・看護系学校への希望が年々増えているが，組織的かつ継続的な取組により全員の進路実現を果たした。	4年制大学進学者の増加 - インターンシップの充実 - 早期の就職離職防止対策 - 進路別の継続的，組織的な指導体制の構築。進路当番や企業訪問等での担当者負担の公平化
生徒指導	積極的な指導を通して生徒の規範意識は高まっている。また，昇降口指導や服装指導を全職員で継続した結果，チェックを受けた生徒数は年度末には激減した。ここ数年続いていた重大交通事故は1件もなく，交通安全指導の成果が見られた。家庭と連携した指導と教職員全体の指導実践をさらに一致させ，指導体制をより強固にしている。	- 標準服の着こなしや規範意識の向上 - 登校時の遅刻指導や時間を守らせる指導の徹底 - 生徒の交通安全に対する意識の向上 - 家庭と連携した交通事故防止の指導の充実
特別活動	生徒会役員の定例会を毎週1回行っている。また，応援団，文化祭実行委員会に多くの生徒が積極的に参加するようになった。ボランティア活動にも熱心に取り組んでいる。部活動加入率は38%と低い。特別活動を通じた活動記録を，「江総ポートフォリオ」に記録している。	- 学校行事への生徒の主体的な取組 - 部活動加入率の向上と顧問の負担軽減 - 地域ボランティア等への積極的な協力 - 江総ポートフォリオとキャリアパスポートの融合

4 中期的目標

- (1)新学習指導要領に対応し，生徒に興味・関心をもたせる題材や指導法の工夫改善に取り組む。
- (2)人権教育や道徳教育の指導改善を通じて心の教育の充実を図る。
- (3)生徒の進路希望実現のために，進路ガイダンスや科目選択のためのきめ細かな指導体制を構築する。
- (4)学校の実情（進学・キャリア）や地域のニーズ（連携）に対応した教育内容の充実を図る。
- (5)校内の行事等の精選・見直しを行い，教職員の労働時間・負担感を軽減する。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
基礎学力の向上と個に応じた学力の定着	・授業に臨む基本的な態度を育成し，学力の定着を図る。また，主体的に学ぶ意識を育成する。 ・英語・数学での習熟度別学習指導の工夫改善に努め，個別指導の充実を図る。 ・生徒に興味・関心を持たせる授業，分かる授業を目指すとともに，知識・技能の習熟を図る。また，各種検定試験の合格を目指す。
基本的生活習慣の確立と規範意識の育成	・頭髪・服装・遅刻指導について，日常的・継続的な生徒指導を徹底する。 ・保護者に対して，様々な機会を通して規則・規律の尊重についての理解を求める。 ・生徒指導に対する職員間の共通理解を深め，一致協力して指導にあたり，充実させる。 ・授業や学校行事で5分前を意識した行動に努める。
進路希望の実現と指導体制の確立	・4年生大学進学希望者に対する指導方法について再考し，4年制大学進学者の増加を目指す。特進クラスの指導を組織的に行う。 ・インターンシップを実施し，進路について自ら考え主体的に決定できる力を育てる。 ・「産業社会と人間」の時間の一層の充実に努め，3年間を見通した進路シラバスに基づく指導を実践する。 ・模擬試験や資格取得を推進し，進路希望の実現を図る。
地域と連携した学校づくりの推進	・家庭や地域社会と連携した，開かれた学校づくりに務める。 ・「チャレンジ・プロジェクト」を通して，地域貢献，地域連携，地域共生を目指す。また，プロジェクトの精選・見直しを随時行い，その質を高める。
生徒の主体的活動の充実	・部活動へ積極的に参加し，学校生活への興味・関心を高める。 ・学校行事や生徒会活動に積極的に参加できる工夫をする。 ・勤労体験やボランティア活動を通して心の育成を図る。 ・部活動顧問の適正配置や，効率的な練習方法を研究・導入するなど，顧問の負担感を減少させる。